

ア ジ ア 日 誌

1 月 26 日 — 3 月 31 日

世界・国連

1 月 26 日

◆ソ連、ラオス国際監視委復活の英提案を非公式に拒否。

1 月 27 日

◆A・A連帯会議特別会議の決議に基づき設置されたコンゴ支援国際委カイロで会議を開いた。

1 月 31 日

◆国連本部、フィンランドのサカリ・ツオミオヤ氏を特別使節としてラオスに派遣することを決定。

2 月 1 日

◆バグダッドで開催中のアラブ連盟外相会議、対アルジェリア臨時政府援助増額を決定。

◆コンゴ問題討議の国連安保理事会開く。

2 月 6 日

◆ラスク米国務長官、記者会見で中共の軍縮参加を検討すると発表。

2 月 7 日

◆WHO 第14回会議、中国加盟を拒否。

2 月 17 日

◆SEATO、ラオス政府の要請に応じて調査団派遣を決定。

2 月 20 日

◆国連安保理、コンゴ問題でA・A 3 国案を採択。

2 月 26 日

◆ベルリンで開かれていた低開発国援助会議終わる。

3 月 3 日

◆国連、コンゴ派遣軍に対し軍事基地維持のため武力行使を指令。

3 月 8 日

◆エカフェ第17回総会ニューデリー

で開く(8~20日)

3 月 14 日

◆国連当局、アフリカの新独立国の教育施設近代化・拡大のため2年間に1150万ドルをつぎこむ計画開始を発表。

3 月 22 日

◆SEATO 軍事顧問会議バンコックで開く(22~24日)。

3 月 23 日

◆英政府、ソ連に対しラオス問題解決のための3項目を提案。

◆ケネディ米大統領、記者会見で対ラオス積極策を発表。

3 月 26 日

◆ラオス対策などを討議する米英首脳会談キウウェストで始まる。

3 月 27 日

◆SEATO 理事会、バンコックで開く(27~30日)。

◆低開発国援助(DAG)第4回会議ロンドンで開く(27~29日)。

◆ケネディ米大統領、ラオス問題に関しグロムイコ・ソ連外相と会談。

東 ア ジ ア

中国、台湾、南北朝鮮、モンゴル、チベット、香港

1 月 27 日

◆中国とビルマ、貿易協定調印。

1 月 28 日

◆中国・ネパール国境委、北京で第4回会合開く。

1 月 31 日

◆中国、北ヴェトナムに1億4000万ルーブルの借款供与。

2 月 1 日

◆韓国政府、ホワン貨の公定ルートを1米ドル対1300ホワンに切り下げ

ると発表。

2 月 2 日

◆中国とアルバニア、通商航海条約、借款供与協定などに調印。

◆中国、カナダから4000万ブッシェルの穀類を輸入。

◆北京のラオス闘争支援大会で陳毅外交部長は、ラオスのプーマ政府から要請があれば援助すると言明。

2 月 3 日

◆中国、オーストラリアから小麦100万トンを入力。

◆韓国民議院、日韓両国間の主要懸案事項が解決するまで対日外交関係復活に反対するなどの4原則決議案を可決。

2 月 4 日

◆中ソ文化協力計画、北京で調印。

2 月 5 日

◆北京放送によれば、食糧不足克服運動が農村人民公社生産隊により展開されている。

2 月 6 日

◆台北紙によれば、国府機が中国本土に食糧を投下した。

◆国府と中共の艦艇、馬祖島沖で交戦。

2 月 8 日

◆米韓両国、新経済協定に調印。

2 月 9 日

◆台湾と米国、米余剰農産物を300万ドル追加買い付ける覚え書きを交換。

2 月 11 日

◆外務省、東南ア諸国と外米買い付け交渉を開始したと発表。

2 月 14 日

◆インド議会への中印国境会議報告書によると、中共はインドのシッキム、ブータンに対する合法的責任およびカシミールのインド併合を認め

ることを拒否。

2月15日

◆中国・ネパール国境合同委第2次会议終わり、共同コミュニケ調印。

2月21日

◆日本政府は、中国に対し食糧など救援物資送付を申し出ることを決めた。

2月23日

◆中国領事館、インド当局がカルカッタの中国人学校長とチャイナ・レビュー紙編集者を追放したことに抗議。

2月24日

◆韓国とフィリピン貿易協定調印。

2月25日

◆国府は同国軍がラオス王国軍に参加しているとの報道を否定。

2月26日

◆日本経済使節団、台湾訪問。

2月27日

◆国府外相韓国訪問。
◆北鮮とハンガリー、貿易支払い協定調印。

2月28日

◆中国とマリ、貿易支払い協定に調印。
◆韓国の高中生ら新米韓協定反対でデモ。
◆韓国国民議院、米韓援助協定を条件つきで批准。
◆韓国警察、反政府デモに備えて全国に特別警戒。

3月2日

◆中ソ貿易予備会議終わる。
◆北鮮とポーランド貿易協定調印。
◆米政府は、国府、ビルマ、ラオス各政府に対し、残存国府軍の台湾送還を援助する用意ありと通告。

3月3日

◆韓国と台湾、貿易協定調印。

3月5日

◆国府、タイ、ビルマ国境残存の国府部隊台湾送還のため頼参謀次長をバンコックに派遣。

3月6日

◆北鮮政府、「朝鮮の平和統一のた

めに」の覚え書きを発表。

3月13日

◆米政府、新駐日大使にE・ライシャワー氏を任命するにつきアグレマンを求む。

3月14日

◆中国・インド両国国境警備隊衝突。

3月20日

◆韓国政府、朝鮮統一方式につき覚え書きを発表。
◆北鮮政府、韓国の食糧難救援のため米10万石の無償提供を決定。

3月26日

◆陳毅中国副首相、インドネシア訪問。

3月30日

◆中国の葉対外貿易部長、中ソ貿易協定調印のため訪ソ。

西南アジア

フィリピン、タイ、南北ヴェトナム、ラオス、カンボジア、マラヤ、シンガポール、インドネシア、北ボルネオ、サラワク

1月28日

◆フランスと南ヴェトナム、原子力平和利用に関する情報、核物質、設備、技術者等の交換に関する協定締結。
◆カンボジアにベン・ヌート氏を首相とする新内閣成立。

1月29日

◆北京放送によると、ラオスのシェンクワン州で統一委員会が成立。

2月1日

◆インドネシアとフィリピン、両国国境海域の定期パトロールに関する協定に調印。

2月3日

◆フィリピンのセラノ外相、東南ア諸国連合結成につき協議のためマラヤ訪問。
◆西独、インドネシアに2億マルクを援助する協定に調印。
◆カンボジア元首シアヌーク殿下、ラオス問題解決のための国際会議を再度英首相に提案。

2月4日

◆ラーマン・マラヤ首相とセラノ・フィリピン外相、東南ア国家連合結成で合意。
◆マラヤのラーマン首相代理は、農業に重点をおいた第2次5カ年計画の詳細を発表した。

2月5日

◆ラオスのブンウム政府、仏軍基地2カ所を接収。

2月6日

◆仏政府、ラオスのブンウム政府のセノ基地接収に抗議。
◆北ヴェトナム、国際監視委に対しマラヤの南ヴェトナムへの武器供与の調査を要請。

2月7日

◆インドネシアのスバンドリオ外相、オランダ政府の覚え書きを未解封のまま返送。

2月9日

◆ラーマン・マラヤ首相とガルシア比大統領、ASAS(東南アジア連盟)にタイの参加要請することに同意。

2月10日

◆南ヴェトナム政府、大規模な政治犯の恩赦を行なったと発表。

2月11日

◆マラヤ政府、ハ国連事務総長の求めに応じて425の部隊をコンゴに派遣。
◆インドネシアと東独、ジャカルタで貿易会談開始。

2月12日

◆インドネシア政府、オランダ人経営の43企業を国有化。

2月13日

◆マラヤ、タイ、フィリピン3国、「東南アジア連合」(ASAS)を設立。
◆チェコ貿易相および代表団、ジャカルタ訪問。

2月14日

◆インドネシアのスバンドリオ外相、同国はASASに加盟せずと発表。

2月16日

◆インドネシアのヤミン国家計画委員長、モスクワを親善訪問(16~27日)。

2月17日

◆ラオスのブンム政府、プーマ中立政府首相と停戦交渉のためノサバン将軍の派遣を決定。

2月18日

◆ラオス政府、プーマ殿下に新政府参加要請を決定。

2月19日

◆ラオスのバクナ国王、中立政策の確認、カンボジア、マラヤ、ビルマ中立3国視察団の派遣要請などにつき特別放送を行なった。

2月20日

◆タイの警察と共産主義者、国境付近の町で衝突。

2月21日

◆パテト・ラオ、19日の国王提案による中立3国視察案を拒否。

2月22日

◆ラオスのプーマ前首相、ジャール平原に飛び、ブンム政府とは妥協せずと声明。

◆タイ、ビルマと国府に対し、タイ領空侵犯に抗議。

◆インドネシアの西ジャワ州は、州内外国企業を5年間に漸次国有化する方針を決めた。

2月23日

◆カンボジア政府、バクナ・ラオ国王提案の3国視察団案に反対の意向を表明。

◆北ヴェトナムの労働者連盟はハノイで第2回会議を開催(23~27日)。

2月24日

◆ラオスのプーマ前首相、内戦収束のための14カ国会議開催を再度要請。

◆ソ連のパテト・ラオ空輸再開。

◆ソ連とインドネシア、第2回の経済・技術協力に関する一般議定書を調印。

2月25日

◆タイとマラヤ、インドネシアの天災による農作物被害に対し、米1000トンを贈与。

2月27日

◆ソ連とインドネシア、両国の科学協力協定につき了解に達した。

◆南ヴェトナム政府閣僚、大統領の

政府機構改革計画に従い辞任。

2月28日

◆南ヴェトナム軍は、サイゴン北方のゲリラを掃討したと伝えられる。

3月1日

◆ラオスのプーマ前首相はカンボジアに帰った。

◆インドネシアのスカルノ大統領、反共民主連盟など反動派を禁止。

◆インドネシア国家企画審議会議長ヤミン博士来日し、同国経済建設8カ年計画に対する協力を要望。

◆北ヴェトナムとポーランド、長期貿易協定調印。

3月2日

◆米比両国、懸案の両国軍事基地協定改定問題のうち刑事裁判権条項で合意。

◆タイ政府、ビルマ国境から逃げてきた国府ゲリラを追い出すため軍隊を派遣したと発表。

3月3日

◆ソ連、インドネシアに対し3億6700万ドルの借款供与。

◆タイ政府はタイ駐在国府大使に対し、ビルマ領から侵入した国府部隊を3日以内に撤退させるよう申し入れ。

3月6日

◆インドネシアのスカルノ大統領、国民動員省を廃止し、高等教育・科学省を設置すると発表。

3月8日

◆北ヴェトナム友好親善使節団、ギニアなどアフリカ諸国を訪問。

3月9日

◆ラオスのノサバン副首相とプーマ前首相、内戦終結のため会談。

3月10日

◆ラオスのプーマ前首相とノサバン副首相は共同声明で、中立政策の確認、臨時政府樹立と総選挙準備のための全政治グループ代表会議の開催などを発表。

◆カンボジア政府、国連に対し、南ヴェトナムに住むカンボジア系少数民族に対する残虐行為の調査を要請。

3月11日

◆インドネシア、オランダと断交。

3月15日

◆プノンペンで開かれたプーマ・ノサバン代表団会談後、サナコン代表は、内戦打開策は生まれなかったと述べた。プーマ前首相はシアヌーク殿下提案の国際会議の可能性をみつけるため、世界各国歴訪に出発。

◆インドネシアのナスチオン国防相、北スマトラの全ベルギー資産の接収を発表。

3月18日

◆カンボジアのシアヌーク殿下、南ヴェトナム在住のカンボジア人処置問題につき交渉を呼びかけ、応じなければ断交すると述べた。

◆ラオス政府はプーマ前首相を非難し、今後は国王提案の解決方法に重点をおくとの声明を発表。

3月19日

◆インドネシアのスカルノ大統領、第2回バンドン会議開催を提案。

◆南ヴェトナム政府、15万の予備役兵を召集。

3月23日

◆ラオスのプーマ前首相、アラブ連合を訪問し、ナセル大統領と会談。

3月25日

◆ラオスのプーマ前首相、ラオス問題解決の英提案を支持すると述べた。

◆台北発の通信によれば、米第7艦隊がシャム湾に進出したといわれる。

3月30日

◆モロッコと北ヴェトナム国交樹立。

◆ヒューム英外相、共産主義者が南ヴェトナムを支配する現実的な危険があると声明した。

南 ア ジ ア

インド、パキスタン、セイロン、ビルマ、ネパール、ブータン

1月29日

◆DLF、インドの自動車会社拡張に720万ドル借款供与。

◆ビルマ軍は、ラオス、タイとの国境付近に残る国府軍の2拠点を占拠したと伝えられる。

1月30日

◆ブータン国王は中国が同国に対し非公式に国境画定のための会談開催を提唱したと発表。

2月1日

◆イタリア経済使節団ニューデリー訪問。

2月6日

◆ユーゴ経済使節団、パキスタン訪問。

◆インド、米ソに対し、ラオス、コンゴ両国の非武装中立化を勧告。

2月7日

◆インドのマデヤ・プラデシ州でヒンズー・回教両教徒が衝突。

◆ネパール政府、2紙の閉鎖を命令。

2月8日

◆ブータン国王と首相、ニューデリーを訪問し、ネール首相と会談。

2月9日

◆パキスタンは、西独の電気通信会社と同国の通信工業に関する技術、施設供与に関する契約を結んだ。

◆米国は東パキスタンの道路輸送のための借款供与協定に調印。

◆ビルマのウ・ヌー首相、任期終了後は僧となるため政界を引退すると報道を否定。

2月10日

◆ネパール政府、ネパール、中共両国は国境画定に関する一般協定に到達したと発表。

◆インドのセンサス始まる。

2月11日

◆インドとユーゴ、両国文化協定批准書を交換。

2月13日

◆パキスタンのカジール外相は、インドが核武装すれば同国もすると述べた。

◆パキスタン農業開発銀行創立。

2月15日

◆インドの投資センター、ニューデリーで開所。

◆日本の貿易代表団、カラチ到着。

2月16日

◆ネール首相は議会で、インドは中国、ビルマ国境協定による境界を認めないと述べた。

2月17日

◆インドはパキスタンに対し、50万ポンドの茶を両国間の特別な支払い契約のもとに供給した。

◆ビルマ軍事当局、国府ゲリラに物資輸送中の米国製機1機を撃墜したと発表。

2月18日

◆セイロン使節団、イラク訪問。

◆インド政府、中国の最近の2件の領空侵犯に抗議。

2月19日

◆ソ連のコスイギン第1副首相、インド訪問。

◆ネパール内閣の改造が行なわれ、国王は国防相に就任。

2月20日

◆カシミールで、農民によるパキスタンおよび中国の国境を画定しようとする動きに抗議する示威運動行なわれる。

2月21日

◆ソ連、インド第3次5カ年計画に6億ルピーを与える協定に調印。

◆米製機が国府残留軍を援助しているのに抗議して、ビルマで大規模な反米デモ起こる。

2月22日

◆ビルマ政府、同国内に国府軍が残留していることに對し国連に抗議。

2月23日

◆ネパールで民主派のデモ行なわれ、50人が逮捕される。

2月24日

◆ネパール政府、国連にコンゴ派兵を申し入れ。

◆パキスタンのショアイブ蔵相、米政府との経済援助に関する一連の会議のためワシントンに到着。

2月25日

◆ビルマのウ・ヌー首相、ラオス国王提案の3国中立委案を拒否。

2月26日

◆ダッカで、近代世界におけるイス

ラム教のあり方についてのシンポジウム行なわれる。

2月27日

◆インド政府、パキスタンの同国領事館に対する投石など暴力行為に抗議。

◆パキスタンの学生、インドのマデヤ・プラデシ州における回教徒殺害事件に抗議デモ。

3月2日

◆西独はインド第3次5カ年計画に對し4億マルクの借款を与えると発表。

◆DLF、インドの発電所その他6事業に對し1億5300万ドルの借款供与。

◆パキスタン政府、同日よりICA買付けを全面的に停止すると発表。

3月3日

◆ソ連とパキスタン、石油資源開発のための5000万ドル借款協定に調印。

3月9日

◆インドとモンゴル、5年間の文化協力協定に調印。

◆ビルマ政府、タイ領から追われてビルマに戻ったと伝えられる国府残留軍に備えて国境地帯に兵力を増強。

3月16日

◆パキスタン政府、日パ友好通商条約を批准。

◆セイロン政府、全日刊紙の国有化を発表。

◆ビルマのウ・ヌー首相、党指導部分裂の理由で連邦党総裁を辞任。

3月17日

◆ビルマ国境の国府残存部隊の台湾送還開始。

3月19日

◆パキスタン原子力委員会、米原子力会社3社とイスラマバードに米・パキスタン共同原子力科学技術研究所を設置する協定に調印。

3月20日

◆インドのネール首相とアラブ連合のナセル大統領会談し、第2回バンドン会議開催の可能性を検討。

3月21日

◆ユーゴ・ビルマ両国の通商交渉再開。

3月22日

◆ハリマン米特使、インドのネール首相と会見し大統領の親書を伝達。
◆インドのネール首相とラオスのブーマ前首相ラオス問題につき会談し、早急な停戦への努力することおよびその後14カ国会議開催することの2点につき合意。

3月30日

◆ネパールのカトマンズで軍隊と暴徒が衝突。

3月31日

◆ビルマのネ・ウィン国防相訪ソし、フ首相らと会談。

西南アジア

アフガニスタン、イラン、イラク、サウジアラビア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、アラブ連合、バーレン、クエート、カタール

1月26日

◆英。アラブ連合両国、外交関係正式に再開。

◆イランのテヘランで、大学生が最近行なわれた選挙に政治的自由がなかったと抗議デモ。

◆イラクとソヴェト、1961年度文化交流計画に調印。

1月30日

◆アラブ外相会議、バグダッドで開く。

1月31日

◆イスラエルのベングリオン首相辞任。

◆西独、アラブ連合の石油研究所設立に協力することにつき同国と合意。

2月7日

◆スーダン当局、同国を通してコンゴに食糧、薬品などを供給したいとのソ連の要請を拒否。

2月20日

◆DLF、イスラエルの工業施設購入のため1000万ドルの借款を認可。

2月25日

◆ベルギー、アラブ連合と断交。

◆イギリスとオーマンの交渉決裂。

2月26日

◆アラブ連合、ベルギー資産を接収。

2月28日

◆イスラエルの次期首班ベングリオン前首相、大統領に組閣不能を報告するとともに議会の開催を要請。

3月8日

◆モロッコのハッサン2世、アラブ連盟会議で同連盟のわく内で「アフリカ連盟」結成を提案。

◆イスラエルとシリア、国境で衝突。

3月11日

◆イラン新内閣成立。

3月13日

◆米ハリマン特使、米中東政策につきイランのパーレビ国王と会談。

3月16日

◆米、サウジアラビア政府の通告に従いダーラン基地を放棄。

3月17日

◆バグダッド紙によると、イラク政府はアルジェリア臨時政府に200万ディナールを割り当てた。

3月28日

◆イエメン国王、首都付近で射撃さる。

アフリカ

1月28日

◆エチオピアのセラシエ皇帝、ルムンバ首相の不当な取り扱いにつき国連に抗議。

1月29日

◆アフリカのルアンダ・ウルンジ共和国正式に宣言。

1月30日

◆アルジェリアのアバス首相らセイロン訪問。

2月1日

◆チュニジア、アラブ連盟のボイコットを止めてバグダッドのアラブ連盟外相会議に出席することを決定。

2月3日

◆ダカールにおけるパン・アフリカ経済会議は、アフリカ共同市場についての計画草案を可決した。

2月9日

◆コンゴのカサブブ大統領、イレオ氏を首相に任命。

2月10日

◆カタンガ州政府、ルムンバ首相脱走を発表。

2月12日

◆ガボン大統領にレオン・ムバ前首相選出さる。

2月13日

◆カタンガ州政府、ルムンバ首相がカタンガ州民に殺害されたと発表。

2月15日

◆国連現地あっせん委、コンゴのイレオ政権を合法と認めた。

2月14日

◆北カメルーン、住民投票によりナイジェリアとの合併、南カメルーンはカメルーン共和国との合併決まる。

◆アラブ連合、ギゼンガ政府を承認。

2月19日

◆中共、コンゴのギゼンガ政府を承認。

2月21日

◆北鮮、ブルガリアなどコンゴのギゼンガ政府を承認。

2月22日

◆アクラで開かれた「カサブランカ会議諸国」外相会議で、コンゴからの全外代表引き上げを要請。

2月23日

◆コンゴのカサブブ大統領、国連安保理決議案はコンゴの主権を侵すと抗議文発表。

3月1日

◆北アフリカ3国(チュニジア、モロッコ、アルジェリア)、アラブ統一計画討議のための小首脳会談開催。

3月6日

◆コンゴ指導者会議タナナリブで開く(6~12日)。

3月12日

◆ハンガリーとマリ、外交関係樹立。

3月18日

◆マリとソ連、経済・貿易・技術・文化に関する協力協定調印。

3月25日

◆アフリカ諸国民会議、カイロで開く。